

## 6 日本近世における修行道

【全4回】／開催方法：対面併用

みの わ けん りょう  
**袁 輪 顕 量**

立正大学仏教学部  
仏教学科教授  
立正大学法華経文化研究  
所長  
東京大学名誉教授



受講料 会員料金：¥9,000 早割価格：¥8,000(納入期限：7月28日)

### 【日程・時間】【全4回】

8月1日(土) 12:30~14:00 / 14:10~15:40

8月2日(日) 10:15~11:45 / 12:30~14:00

### ■受講に必要なもの

[テキスト] レジューメ配布

日本仏教における修行について追いかけてきているが、令和八年度は近世江戸時代に活躍した人物に焦点を当てたい。修行というと、滝行や山の中を歩く行を思い浮かべる人が多いと思う。しかし、ここで述べる行とは、私達の身心をみつめる止観行を指す。初期仏教においては念処と表現されたものが止観ということばで代わりに表現されるようになり、やがて大乘仏教にも踏襲されていた。釈尊によって見いだされた身心の観察法が何を目的とし、どのように変化し、日本に伝播してから、どのように受用されたかという視点から講義をする。

とくに近世江戸時代の仏教は、現在の仏教に繋がる部分を多く持っているので、十分に吟味してみたい。

第1講 至道無難

第2講 白隠慧鶴 (1)

第3講 白隠慧鶴 (2)

第4講 深草元政

### 【参考書】

①『仏教瞑想論』

著者：袁輪顕量 出版社：春秋社 出版年：2008

②『日本仏教史』

著者：袁輪顕量 出版社：春秋社 出版年：2015